

日米連携でアフリカの女性起業家を支援

01



カイゼンのワークショップでは、ゲームを交えて実践的に5Sについて学んだ



パネルディスカッションで、アフリカの女性起業家たちにプレゼンテーションする瀬谷さん

アフリカの発展に向けて、貿易や投資、開発促進のカギの一つとして期待されているのが、現地の女性起業家たち。その支援のため、日米両国が連携を強めています。8月4～6日にアメリカのワシントンDCで開催された米務省の「米国アフリカ女性起業家プログラム(AWEP)」にJICAも参加しました。

AWEPに参加した女性起業家を対象に開かれたのが「JICAセッション」。第1部では、シニア海外ボランティアとしてヨルダンとエジプトで中小企業の育成に携わった家木幸一さんが、品質・生産性向上に向けた日本ならではの「5S・カイゼン」のワークショップを行いました。参加者たちからは「自分の会社でも導入したい」という声が上がりました。

第2部は、「日本とアフリカのビジネスパートナーシップ強化」についてのパネルディスカッション。ソマリアやケニアなどで平和構築活動に取り組

みながら日本企業の海外展開コンサルティングを行っている瀬谷ルミ子さん(JCCPM株式会社取締役、NPO法人日本紛争予防センター理事長)が、日本企業のアフリカ進出事情を紹介しました。

もう一人のパネリストは、南アフリカで養鶏業を営むボンギウエ・カリさん。今年2月に日本で開催された「アフリカ女性起業家支援セミナー」への参加をきっかけに、JICAの支援により株式会社サカタのタネが南アフリカで実施しているBOPビジネスとの連携を進めています。「アフリカが必要とする技術や知見を持つ日本と、日本にはない豊富な資源に恵まれたアフリカは、お互いをもっと知ることが大切」と述べました。

最大の課題は事業のパートナー探し。日米政府の交流プログラムをマッチングにつなげられるよう最大限に活用すべきだという認識が高まりました。

ABEイニシアティブ、いよいよ始動!

02



日本企業の水耕による野菜生産工場のモデルを視察する研修員たち

9月7～15日、「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)」の第一弾として、ケニアやタンザニア、モザンビークなど8カ国から研修員156人が来日しました。

ABEイニシアティブは、2013年6月に横浜で開催された「第5回アフリカ開発会議(TICAD V)」において、安倍晋三内閣総理大臣が提唱したもので、アフリカの経済発展を担う人材育成のため、これから5年間で、政府機関や民間企業、大学の職員など1000人の若者を日本で受け入れます。日本の大学や大学院での教育に加え、日本企業でインターンシップの機会などを提供していきます。

研修員たちはこれから、日本語や日本文化、日本企業のアフリカ進出状況などの講義を受け、日本の48大学で工学、経済・経営、農学などの修士課程で学ぶ予定です。

高校生が青年海外協力隊の訓練を体験!

03



「豊かさを考える」をテーマに、ワークショップでは参加者同士で意見交換

8月18～30日、長野県駒ヶ根市と福島県二本松市の青年海外協力隊訓練所で、東京都教育委員会主催の「東京グローバル・ユース・キャンプ」が行われました。これは都立高校の生徒がJICAボランティアの派遣前訓練を体験できる5泊6日のプログラムです。

今回は55校から99人が参加し、まさに今訓練中の協力隊候補者たちと寝食を共にしながら、語学講座やワークショップを体験しました。参加した高校生たちからは「将来、青年海外協力隊員として開発途上国で活動してみたい」といった声が上がりました。

二本松訓練所を視察した比留間英人東京都教育委員会教育長は、「高校生が正解のない問題に取り組み、自分で考え、議論するのは普段はなかなかできない経験。今後もグローバル人材の育成に取り組んでいきたい」と語りました。